

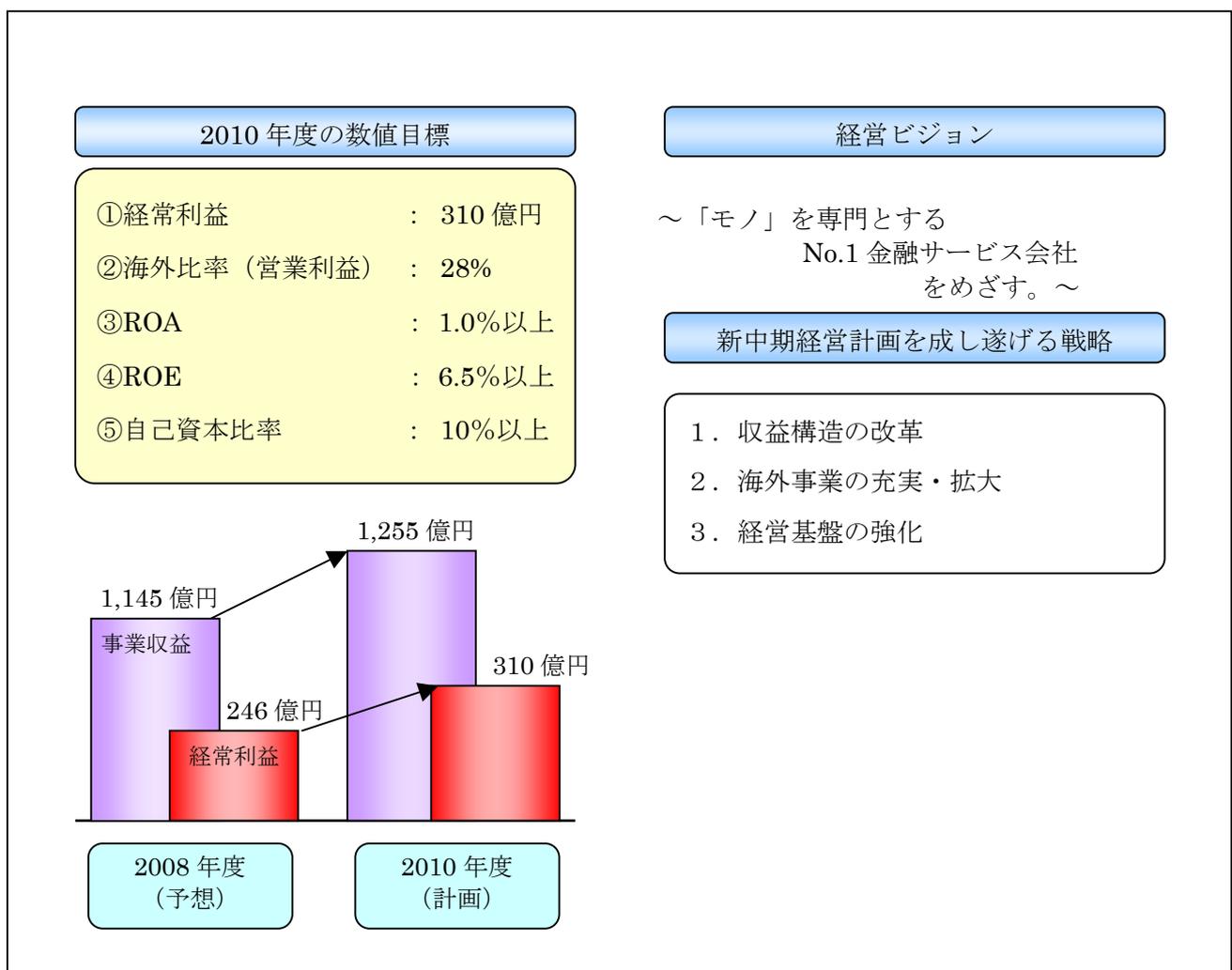
各 位

会 社 名	日立キャピタル株式会社
代 表 者 名	執行役社長 高野 和夫
(コード番号：8586・東証第一部)	
問 合 せ 先	執行役常務 百井 啓二 (TEL：03-3503-2118)

<2008～2010 年度新中期経営計画 (3 ヶ年) について>

当社はこのたび、2008 年度 (2009 年 3 月期) ～2010 年度 (2011 年 3 月期) までの 3 ヶ年を計画期間とする中期経営計画を策定しましたのでその概要をお知らせいたします。

— ■ 新中期経営計画の概要 ■ —
～「モノ」を専門とする No.1 金融サービス会社 ～



<新中期経営計画の基本的考え方>

1.事業環境について

新リース会計基準等を背景としてリース需要の変化が予想される環境下において、制度面では新貸金業法等の施行に加えて平成20年度には割賦販売法等の改正が予定されるなど、当社グループをとりまく国内の経営環境は大きく変化するとともに、厳しさを増しております。一方、海外においては、中国・インド等のアジア経済は順調な成長を続け、ビジネス・チャンスが広がってきております。

2.経営ビジョン

従来の「モノ」に関する金融サービスだけではなく、「モノ」の利用価値・循環にも注目した新しいサービスを提供・開発し、「地域」と「お客様」に密着した営業の積極的な展開により、『「モノ」を専門とする No.1 金融サービス会社』としての地位を確立いたします。

3.新中期経営計画を成し遂げるための戦略

(1) 収益構造の改革

従来、当社ではファイナンス・リースを主とした金融サービスが収益の大勢を占めておりましたが、持続的成長を可能とする収益構造に転換いたします。

① 「モノ」を基本とした金融収益

従来のファイナンス・リースだけではなく、オペレーティング・リースや残価設定クレジット等「モノ」を基本とした取扱商品を充実させ付加価値を高めてまいります。

② 「モノ」の管理・受託に注目した手数料収益

当社がリース取引で得た「モノ」の管理ノウハウを活かした商品の拡充を図ります。

また、「モノ」の流れに注目し、与信・回収能力を活かした売掛金の回収および買掛金の決済といったアウトソーシング・ビジネスや信用保証分野を拡大します。

③ 「モノ」の利用価値、循環に注目した仕入・販売収益

仕入・販売能力が必要とされるレンタル取引やオートリース取引、リサイクル・リユース取引を強化してまいります。

④ 新たな市場への取組み

今後注目される「環境・資源・エネルギー問題」や「少子・高齢化社会」・「地域振興（官から民へ）」「ネット社会」に対応するため、新たな商品を開発し積極的に取組んでまいります。

なお、収益構造の改革および収益基盤の強化を加速するために、積極的な事業提携、M&Aを推進します。

(2) 海外事業の充実・拡大

- ①事業提携・M&A等により、欧州・米国といった現在の海外事業の拡充を図ります。
- ②当社のビジネスモデルが活用できるアジア地域へ積極的に進出します。

(3) 経営基盤の強化

①基盤システムの再構築

会計・税務・法律と制度変更に対して迅速に対応できるようにIT投資を行います。

また、お客様からの申込み・問い合わせなどをWeb化（カスタマー・フロントシステム）することにより、お客様の利便性を高めるとともに、営業効率の追求を図ります。

②リスク管理の高度化

個々の信用リスクを管理するだけでなく、ポートフォリオで信用リスク管理を行っておりますが、現在のリスク管理を高度化し、オペレーショナル・リスク、リーガル・リスクなども包含した統合リスク・マネジメントの構築を行います

③業務品質の向上

「Quality First」をスローガンとして、常に業務工程を見直し、「業務品質」の向上をはかるとともに、社員一人一人の「品質」レベルの向上を図るため、教育・訓練・活動を行います。

以 上